

肢体に障害のある子どもたちが
安全にいきいきと過ごすために

～肢体不自由教育マニュアル

校外活動チェックリスト～

段取りよく、スマートに
校外へ出かけましょう♪



和歌山県立紀伊コスモス支援学校

目次



項目		ページ数
目次		1
『計画・下見』『外部との連携』		2
『内部との連携』『保護者との連携』		3
『服薬』『緊急対応』		4
『移動』	「徒歩」「乗り物全般」	5
	「乗り物全般」「スクールバス」	6
	「公共のバス（観光バスを含む）」	
	「福祉タクシー」	7
「電車（特急・新幹線を含む）」「飛行機」		
『車椅子の扱い』『駐車場』		8
『トイレ』『休憩』		9
『食事』		10
『宿泊先（部屋）』『宿泊先（風呂）』		11
『宿泊先（風呂）』『館内共通』		12
『緊急対応』『避難』『屋外活動』		13
『活動全般』		14
MEMO		15
『番外編～持ち物チェックリスト～』		16
		17

計画・下見

	OK	備考
実際に下見に行って確かめた。		
実際に行くことを、場面場面でイメージした。		
大きい集団でも、子どもの実態から「絶対に避けなければいけないところ」と「配慮が必要なところ（音、振動、光等）」をピックアップして確認できた。		
体調把握を定期的に行えるように計画に組み込めた。		

時間的にも人的にも無理がない計画かな？

下見は、計画と同じ行程で同じルートで見るのが理想です。

人の混雑具合や運行時間等平日の様子も知っておこう！



外部との連携

	OK	備考
要望をまとめた的確に伝えられた。		
あらゆる状況でも迅速に対応してくれる旅行会社である。		
キャンセル条件の確認。		
保険内容の確認。（器物破損、キャンセル、万が一迎えが必要になった時等）		
施設、交通機関等、割引条件の確認。		
職員・保護者の付き添い料金の確認。		

あきらめないで、可能性を探って交渉しよう！人とつながることが鍵♪

内部との連携

	OK	備考
事務室と提出書類の確認。 (就学奨励費・職員の出張費等)		
安全に引率できる、職員の引率数の確保。 (24 時間体制を考慮)		
全体指揮者や団長等の役割が場面毎で明確である。		
応援者(看護師・養護教諭・管理職等)との打ち合わせ。		

保護者との連携

	OK	備考
保護者への説明は早めに設定した。 (文書・説明会)		
必要な費用の説明をした。(寝具を汚した、キャンセル料、付き添い費用等)		
所持している手帳の確認。		
警報・感染症の流行による中止や予定変更時の対応の説明をした。		
外出の際の子どもの様子の確認。		
寝つけなかった時の対応の確認。		
荷物や連絡事項を直前に再度確認。		
緊急時の対応の確認。		
緊急時の連絡先の確認。(保護者・保護者につながらない場合・医療機関)		

「子どもの様子」では、宿泊経験・起床時間就寝時間・体調・服薬状況・場所が変わることへの配慮・入浴の際の注意・就寝の際の注意・安心できるグッズの有無・夜尿・排便のコントロール等宿泊することをイメージして聞き取ろう！

保護者の方の不安や心配事も受け止め、具体的な対応策を話し合おう



服薬

	OK	備考
臨時と薬の保護者の書類の提出。		
服薬内容の確認。(種類・量・服薬時間・飲み せ方・服薬後の変化・副作用)		
複数チェック体制。(表があると良い)		
薬の管理者が決まっている。(グループに分 かれるときは明確に、受け渡しをスムーズに)		
予備の薬を預かっている。 (急な延泊、服薬失敗を想定)		
飲み終わった薬の袋を保護者に返却。		
直前に、服薬内容に変更がないか確認。		



薬が変更することで、眠気や発作の型が変わる、薬疹が出るこ
ともあるので、対応について保護者と主治医と確認しましょう。

緊急対応

	OK	備考
搬送先の病院と連絡がとれている。 (依頼書・紹介状・場合によっては電子カルテ を主治医から送ってもらう)		
救急搬送の場合、誰に連絡をとり、どこ へ救急車がとまるのか確認。		
救急車が到着するまでの時間の確認。		
業者と医ケア用品の行先や時間、置き場 所等の確認。		
医ケア用品の予備の準備。		



発作による呼吸停止はないですか。発作の際の、時間、呼吸
状態、意識状態、緊急時の対応について確認しましょう。

食事時の発作による誤嚥、窒息は危険です。痰が絡んでいる時も注意
です。吸引が必要になる可能性も考えて備えることも大切です。

移動

徒歩

	OK	備考
暑さ・寒さ・まぶしさ対策。		
個々の子どもに応じた雨対策。		
安全に通行できる。		
・道幅		
・段差		
・坂の勾配		
・路面状況（アスファルト・砂利・凸凹・レール・側溝等 衝撃はどうか）		
・交通量		
・信号の点灯時間		

雨天時の避難場所。建物からの距離。子どもも人工呼吸器等も濡れない工夫を。私達が普段感じないくらいの傾斜も気をつけましょう。子ども自身に、機械に衝撃はないか確かめよう。

乗り物全般

	OK	備考
出入り口の幅の確認。		
座る際、姿勢維持できる。		
楽な姿勢をとれる。		
実態に合った座席配置。		
目が行き届く座席配置。		
乗降順の決定。		
乗降の際、無理のない体制。		
できるだけ乗降しやすい席の確保。		
車内の冷暖房のきき具合。		
車椅子固定具の有無。		
必要なスペースがある。（荷物・車椅子・人等）		

	OK	備考
時間の余裕。		
エレベーターの広さ。		
緊急体制のシュミレーション。		



とっさに教師が席を外す場合でも、安全に姿勢を維持できるか確認しよう！（ベルトの長さ・クッションなどかませるもの等）
頭や手、足が、窓や通路を通る人、座席等に当たらないか、車内放送等でびっくりして不意な動きをする可能性がないか等子どもの普段の動きからシュミレーションしよう！

子どもにとって楽な姿勢をとれるようにしよう！（リクライニング・横になれるスペース・姿勢変換等）

エレベーターの場所、広さ、何人同時に乗れるのか、エレベーターを使用しないグループとどこで合流するのも確認しよう！

スクールバス

	OK	備考
股、胸ベルトの有無。		
チャイルドシートの確実でスムーズな着脱		

公共のバス（観光バスを含む）

	OK	備考
リフト付きや低床タイプを検討。		
乗降の留意点等バス会社へ事前連絡。		
チャイルドシートのスムーズな着脱。		
バス停で待つ時間の確認。		
バス停で待つスペースの安全性。		
安全に乗降できる駐車場所の確認。		

福祉タクシー

	OK	備考
リクライニングできる広さ。		
安全に乗降できる停車場所。		

電車（特急・新幹線を含む）

	OK	備考
ホームの移動ルートの確認。		
車椅子から座席への移動距離ができるだけ短い。		
乗る車両の確認。（トイレに近い等）		
必要な設備がある。（寝台スペース・胃ろうの際の吊り場所・電源等）		
車椅子の保管場所の確認。		
発券機の確認。（ボタンの位置や高さ等）		
駅員への事前連絡。 （エレベーターの案内・スロープの準備等）		

当日に再度確認！

飛行機

	OK	備考
使用する車椅子の積み込みが可能。		
乗り換え時間、移動時間の事前確認。		
子どもに応じたグッズの準備。		
移動時の配慮事項を明確に伝えられるよう準備。		
なるべく最後方か最前列を希望。		
気圧と子どもの実態との確認。		



持病がある際（心臓・肺等）、医師の診断書が必要な場合がありますよ。



飛行機への移動は、空港の車椅子に乗り換えなくては行けなくて、どんな車椅子になるのかは直前にしかわからないことが多いので、対応できるようベルトやクッションを準備しておこう。移動も飛行機会社の方が行うので、明確に配慮事項を伝えよう。

車椅子は手荷物になります。迅速にコンパクトにできるようにしましょう。車椅子につけるテーブルも手荷物になります。傷つかないように梱包する等工夫をしよう。

車椅子の扱い

	OK	備考
タイヤの空気が十分。		
不具合がない。		
重い荷物をかけない。		
引率者全員が扱える。(たたむのも)		
横にしても大丈夫か確認。		
パンクしたときの対応。		

どの車椅子で行くのか、利点等を保護者と話し合っ決めてみましょう。車椅子を作る際、校外へ出かける際どこまでコンパクトになるのか、その際の利点、不利点を業者、保護者と話し合っ作製することもひとつです。



サイズを測り、乗り物に乗せられるのか、確認しておこう！

駐車場

	OK	備考
駐車量の確認。		
活動先までの移動距離の確認。		
雨天時の対応。		

トイレ

	OK	備考
車椅子のまま入ることができる。		
おむつ交換可能なベッドがある。 (耐荷重量、大きさ等)		
ベッドがない場合、マットを敷くスペースがある。		
子ども用補助便座の有無。		
トイレタイムの十分な確保。		
待っている子どもの待機スペース。		
一カ所だけではなく、複数箇所確認。 (混雑時、急な使用不可の時等の対応)		

休憩

	OK	備考
適度に休憩の時間を計画している。		
ゆっくり横になるスペースがある。 (部屋、ベッド等)。		
子どもにとって休憩できる環境。 (刺激が少ないスペース等)		
	ベッドの大きさ・重量	
	空調設備の有無	
	衛生面	
	マットを敷くスペース (ベッドがない場合)	
	ついたての有無 (心理面への配慮)	



カメラのフラッシュやドアのノック音、非常灯の明かりなど、何気ないことも刺激になりうることもあります。

食事

	OK	備考
車椅子のまま食事することが可能。		
食事スペースは十分取れる。 (椅子を取り除く・机を移動する等)		
車椅子を置くスペースの確保。 (車椅子から降りて食事する場合)		
フロアを一角貸し切れる。 (周りへの配慮)		
子ども用食器の貸し出しの有無。		
アレルギー食材の確認。		
食事形態の個別対応の有無。		
電源の確保。 (医ケア・再調理器具等)		
私物の食器、再調理器具等を洗浄してもらえる。		
食事会場の利用時間の確認。		
部屋食の対応が可能。		



熱い物に手を伸ばせない場所に食事を置けるような広さを確保しよう。荷物を置く場所も確認しよう。体調不良の際の対応についても考えておこう。スタッフの方と話し合い、協力してもらえるところはお願いしよう。(その際、明確に)

再調理できない所を使用する場合、ミキサーやクッカーの準備をしましょう！

体調によって部屋での対応が必要な場合も。経管栄養の際、イリボトルをどこに吊るすのか考えておこう！また、部屋にブルーシートを敷いて車椅子で入り、対応できるのか、スタッフの人と相談しておこう！

宿泊先（部屋）

	OK	備考
室内の段差や転落の危険性の有無。		
必要に応じて設備を動かしてよいか確認。（ベッド・テーブル・ふすま等）		
個々に応じた必要備品の有無。		
電源差し口の数		
冷蔵庫		
ポット		
電子レンジ		
加湿器		
空気清浄機		
夜尿マット		
ベッドの柵		
タオル（フェイスタオル・バスタオル）		
ドライヤー		
空調や電灯の調節が可能。		
夜間体制は無理なく組めている。		
急な体調変化があった時の体制と部屋の確保ができています。		

宿泊先（風呂）

浴室	OK	備考
段差の有無。		
手すりの有無。		
安全に解除できるスペースの有無。		
お湯の温度は適温。		
抱っこして介助することを想定。 （抱っこしての滑りやすさ）		
水に濡れても良い車椅子の有無。		

脱衣室	OK	備考
安全に素早く介助できるスペースの確保。		
空調の有無。		
ドライヤーの有無。		
脱衣から入浴、着替えまで介助人数と体制が組める。		
一定の時間貸し切れる。		
個々の入浴の仕方、時間等を保護者と確認。		

館内共通

	OK	備考
車椅子で通れる幅や段差の確認。		
どの出入り口を使用するか検討。(雨天時等)		
車椅子、補装具着用のままで入れるか確認。		
エレベーターの場所、大きさの確認。全員が合流するまでの時間の想定。		
館内の空調の確認。		
館内放送や照明の確認。(音刺激・光刺激)		
個別対応が必要な子どもへの対策はとれたか。(電源・リールの長さ・火気厳禁等)		
感染症を予防する対策がとれている。 (消毒液・空気清浄機の設置等)		

緊急対応

	OK	備考
救急車が到着する場所と、到着するまでの時間の確認。		
救急車を要請する際の施設との共通理解。		
救護施設の有無。その場所と、どんな職種の人が勤務しているか確認。		

緊急の際は迅速に施設等のスタッフに相談しよう。

子どもの命が最優先！臨機応変に対応しよう！



避難

	OK	備考
施設のスタッフと避難経路や避難方法の確認。		
避難の際、施設の職員の応援要請が可能。		
避難する際、避難経路は通りやすい。		



物や段差で通りづらい、非常階段を使用しないといけないうちの対応について考えよう！できるだけ低い階の部屋だといいですね。

屋外活動

	OK	備考
障害者のための配慮がある設備。(トイレ・遊具・スロープ等)		
日陰の有無。その際の対策。(テントの許可等)		
急な天候の変化の際の対応策。		
動植物のアレルギーの有無。		
子どもの体力を考えた行動範囲をイメージしての計画。		

活動全般

	OK	備考
車椅子専用の観覧スペースの有無。		
活動参加の条件の確認。		

活動に参加する場合、見やすい、聞きやすいように、観覧の位置を交渉したり、カメラや鏡など補助ツールを使用したり、車椅子スペースにこだわらず、見やすい聞きやすい座席に安定して座れる工夫という視点も大事にしよう。また、触れさせる時には、高さも確認し、姿勢やそのためのグッズの準備、また、教師の体制も想定することも大切です。



校外に出かけると、バリアフリーではなかったり、あったとしても子どもの実態にそぐわない場合もありますね。子ども達が安全にいきいきと活動できるためにも、すぐにあきらめるのではなく、スタッフの方と交渉したり、こちらで準備できることはどんなことがあるのか、どう教師の体制を組むのか、具体的に場面場面で想定しておくことが大切なのですね。子どもも教師もきちんと身なりを整えて、スマートに移動できるように心がけたいものですね。



移動や環境（温度変化も含めて）の変化は、子どもにとっては刺激的で、興奮しやすいので、精神的にも肉体的にも疲れやすく、生活リズムが崩れやすく、体調も崩しやすくなります。活動時間、休息（睡眠時間）、食事など、いつもとパターンがかわりやすいです。そのことをふまえて、こまめに体調の変化に気づくアンテナを高く持つことが必要ですね。（全身状態・顔色・活動量・呼吸等）



次の日やその後も元気に登校できるか、体調把握することも大切だよ！



校外活動が終わったら、協力して頂いた方々に「感謝の気持ち」をぜひ伝えたいですね！！



MEMO



番外編
～持ち物チェックリスト～



		OK	備考
場面に応じてすぐに物が取り出せる。 (常時必要な物とそうでないものに分ける・活動・お風呂・トイレ・食事等)			
持ち物に記名のお願い。			
体調管理できる物			
	体温計		
	パルスオキシメーター		
	血圧計		
衛生用品			
	消毒液(アルコール)		
	ウェットティッシュ		
	使い捨て手袋		
	ゴミ袋		
	新聞紙		
	ティッシュ		
体温調節・まぶしさ対策ができる物			
	ブランケット・カイロ等		
	帽子・サングラス・日傘・クールタオル等		
	水分補給 (お茶・水・スポーツ飲料等)		
雨対策			
	傘		
	レインコート		
	ビニール袋		
	タオル		

便利グッズ		OK	備考
	ベルト（車椅子や荷物の固定・姿勢の安定）		
	クッション（楽な姿勢をとらせるため）		
	タオル（詰め物として、たおるそのものとして・加湿用）		
	大きめの洗濯ばさみ（雨用ビニール袋を留める等）		
	延長コード		
個々の子どもにあわせて（再調理・医ケア・睡眠時・移動・休息・活動の際の配慮）			

肢体不自由教育マニュアル～校外学習篇～

作成 ワーキンググループ

○黒江 純子 東 千木 小杉 絵里奈 坂本 有希 園村 麻矢

玉置 拓也 古澤 裕子 宮本 忍 （○ チーフ）

イラスト 西田幸生

協力者 紀伊コスモス支援学校全職員

平成26年 2月 26日